



モンゴル国教育科学省 国際協力機構 (JICA)

「子どもの発達を支援する指導法改善プロジェクト (フェーズ2)」



JICA - コーエイ総合研究所

## 指導法改善プロジェクト NEWSLETTER

2012年11月版 第5号

### 「授業研究報告会」の開催 (2012年6月3日～4日)

ウランバートル市に各区/県教育文化局の指導主事やモデル校の管理職・教員の代表者ら約100名を集めて、「授業研究報告会」を開催しました。

報告会の目的は下記の通りです。

- ・ 2011-2012年度に各モデル校において実施された授業研究実践の結果・教訓・意見を交換する。
- ・ モデル区/県チーム及びモデル校チームのメンバーが2012年11月に予定されている全国向けの研修で講師を務められる能力を身に付ける。
- ・ 指導法の改善を目的とした地域間協力のネットワークを構築する。

1日目の午前中、参加者はそれぞれの地域における授業研究実践状況を報告した後、「良い授業」の事例について発表し、意見交換を行いました。

午後は教科グループごとに、ウランバートル市のセトゲムジ統合校および第97学校において研究授業を参観しました。今回の研究授業の準備には、授業者に加えて、プロフェッショナル・チームメンバーおよびJICAの青年海外協力隊員も加わった点が特徴的です。研究授業後、各教科の特徴に応じた教材研究について話し合いが持たれました。

2日目の午前中は、インドネシア技術交換プログラムの報告、2012年3月に実施されたアルハンガイ研修の報告、非モデル県であるバヤン・ウルギー県、ヘンティー県、ダルハン・オール県で実施された授業研究モニタリングの報告、ウランバートル市教育局の報告などが行わ

れました。その後、参加者は6グループに分かれ、プロフェッショナル・チームの講師の指導によって、2011年11月の研修以降、各地で実施された授業研究の問題点やその解決方法、モデル区/県やプロフェッショナル・チームからどのような支援を求めているのかについて意見を交換しました。

モデル区/県の参加者は、今回の報告会への参加を通して、全国からの代表者に対して研修を実施する自信を持つことができたでしょうか？非モデル県からの参加者は、今回の報告会についてどんな印象を持って帰られたでしょうか？

報告会の最終日に、参加者を対象にアンケート調査を行ったところ、どの報告についても5段階評価で4以上という高い満足度を得ました。研究授業については、とりわけ検討会の実施が授業研究の理解度向上に役立ったという声が聞かれました。今後、地域レベルで指導法改善を持続的に行っていくためには、教育文化局の積極的な参加、地域や学校間の経験交流が重要だという意見が多数寄せられました。



物理の研究授業（光の屈折に関する実験）の様子

### 子どもの発達を支援する指導法改善プロジェクト (フェーズ2)

モンゴルでは2005年から初等・中等教育に新しい学習指導要領、2008年から国家教育プログラムが導入されました。これらの新しい学習指導要領と国家教育プログラムでは、子どもたちに自ら知識を構築していく力を育成することが求められています。この指導要領が全国の学校で実践されるためには、各教員が新しい指導法、すなわち子ども中心の指導法を身に付けることが不可欠です。

モンゴル国教育文化科学省は、国際協力機構の協力を得て、2010年4月から「子どもの発達を支援する指導法改善プロジェクト (フェーズ2)」を開始しました。

プロジェクトの目標は、フェーズ1 (2006～2009年) で作成した教員用指導書と現在、作成中の研修モジュール等を活用して研修を実施し、モンゴル全国に子ども中心の指導法を普及する制度を構築・強化することです。

モンゴル国立大学、教育大学、教育研究所、教育文化局及びフェーズ1の関係者で結成された「プロフェッショナル・チーム」、モデル区・県であるソングノハイラン区、ボルガン県、ザブハン県と共にプロジェクトを実施しています。

#### 目次：

授業研究報告会	1
プロジェクトについて	1
インドネシア技術交換プログラム	2
本邦研修	2
教員養成大学向けの研修	2
モデル区/県の各モデル校における授業研究モニタリングの報告	3
非モデル県の研修とモニタリング	3
「授業研究」ビデオ授業の紹介	3
今後の計画	4
プロジェクト終了に向けて	4
終了時評価調査の結果	4



スメダン県ジャティナングル  
中学校において



インドネシア国民教育省義務教育  
局長M.ハッタ局長との面談

### インドネシア技術交換プログラム (2012年5月19～30日)

JICAは1998年以降、インドネシアの教育の質の向上、とりわけ理数科教育の改善を目的に、授業研究の実践と普及を中心に据えたプロジェクトを実施してきました。2009年からは「前期中等教育の質の向上プロジェクト」が実施されています。インドネシアの授業研究実践の豊富な経験と教訓から学び、今後のモンゴルでの授業研究マネジメント改善につなげることで、モンゴルにおける取り組みを他国に紹介することを通して、プロフェッショナル・チームの意欲・能力強化につなげることを目指し、インドネシア技術交換プログラムを実施しました。本プログラムには、教育文化科学省および教育研究所、ウランバートル市教育局、ボルガン県・ザブハン県・ドルノド県・セレンゲ県の教育文化局、モンゴル国立大学、モンゴル国立教育大学の代表者が参加しました。

インドネシアの国民教育省では、インドネシアの教育制度、教育の質の向上、教員の能力向上に貢献する活動、授業研究のマネジメントと取り組みについて確認することができました。インドネシア教育大学では、同大学の数学部・理科学部による「授業研究実践プロフェッショナル・チーム」と意見交換しました。また、西ジャワ州教育局や教育の質保証機関、スメダン県教育局、スメダン県ジャティナングル中学校などを訪問し、授業研究実践の実情を確認すると同時に、モンゴルにおける授業研究の取り組みも紹介することができました。ジャティナングル中学校では、8年生の社会の研究授業と検討会を参観し、経験から学ぶことができました。

### 本邦研修 (2012年6月19日～30日)

プロジェクトのフェーズ1、2のモデル校の管理職およびフェーズ1のモデル県教育文化局の指導主事、合計21名を日本に招き、東京、神奈川県、長野県において研修を実施しました。今回の研修の目的は、1) 日本の教員の教え方を学ぶ、2) 日本では学校内でどのように教員の指導力を向上させているのか、校内研究などの仕組み・実践を学ぶことでした。

公立の小・中・高校、東京学芸大学附属小学校、中学校、合わせて9校にて、教員と子どもの様子を観察し、校内研究会の様子を見学し、公開研究会にも参加しました。学校訪問以外では、板書、数学・理科の教材研究、JICAの他国の教員研修分野プロジェクトについての講義・紹介がありました。長野県では、小学校・中学校訪問に加え、教員総合センターを訪問し、県内の教員が同センターに集まって、研修を受ける仕組みについて学びました。さらに、日本で最も古い小学校の一つである松本市の旧開智学校では、展示されていた「子守学級に通う子どもの書いた作文」に目頭を熱くする研修員の姿もありました。

これらの訪問・講義のあと、研修員は、県ごとに学んだことを帰国後、どう実践するかについて計画を立てました。計画には板書の改善、学校の教育目標を改善、小学校で読書の時間を作るなどが含まれていました。8月下旬の教員大会においても、日本での研修成果が報告されました。このように、日本で見たこと、学んだことが研修員個人に残るだけではなく、校内・県内で広く伝わることを願っています。



嶺町小学校の校長と教頭と一緒に  
(東京都大田区)



### 教員養成大学向け研修 (2012年9月13日～14日)



数学の演習の様子

教員養成大学の教員や教育課長を対象とした研修をウランバートル市において実施しました。本研修には、モンゴル国立大学、モンゴル国立教育大学、ホブド大学、アルハンガイ教員養成大学、バヤン・ウルギー教員養成大学、ドルノド大学、ゴルバン・エルデネ大学の関係者が参加しており、教員養成課程向け「授業研究」科目の内容と指導法が紹介されました。

受講者に対し授業研究の事例を見せるために、フェーズ1のモデル校である第45学校において人間と自然、化学、数学の研究授業を実施しました。教材研究を事前に確認した上で、研究授業を観察し、授業後の検討会に参加する形で演習を実施したことが、授業者が授業研究のステップと流れを理解する上で役立ったと思います。研修の最後に、各大学の教育計画に「授業研究」科目を取り入れる可能性について話し合い、利点と困難な点を確認することができました。

### モデル校における活動

プロフェッショナル・チームは、2012年9月16日から21日にかけて、ザブハン県のチャンドマニ・エルデネ統合校、シルーステイ、ザブハンマンダル、トソツェンゲル、ソングノ、バヤンテスの各村を訪問し、授業研究モニタリングを行いました。今回のモニタリングには、周辺村からだけでなく、ホブド県からも参加者があったことから、各地で授業研究が積極的に取り組まれていることが伺えました。観察者がしっかりと子どもの様子を観察し、検討会時に授業者の批判よりも改善方法について話し合っている学校もありました。また、子どもたちが緊張していない様子から、授業研究が日常的な活動となっている学校もありました。

9月24～29日の6日間、ボルガン県のモデル校においても授業研究モニタリングを行いました。総合学習の授業では、アールールを作ったり、自分たちが住んでいる町について子どもたちが調べた事を発表するなど、実践的な授業が行われていました。検討会においてプロフェッショナルチームから様々なアドバイスが行われ、教員、特に若い教員にとっては勉強になったことと思います。また、授業研究の時間を毎週設けている学校もあり、教員や学校の授業研究に対する関心の高さが伺えました。モニタリングには高畑専門家も同行し、授業研究・教材研究の基礎知識や、生徒にとってわかりやすい板書の仕方などのアドバイスを各校で行いました。

ウランバートルでは、プロフェッショナル・チームメンバーとウランバートル市教育局指導主事が共同で授業研究モニタリングを実施しました。第67学校の化学では、試薬を使って、洗剤など日常生活で用いられている物質の性質を調べる実験を行いました。イレードウイ統合校では、お椀に水を注ぐと、お椀の中のコインが見えるようになるという実験を導入として、光の屈折についての授業が行われました。第12学校では、おもちゃの車を使って運動エネルギーについて考える授業が行われました。どの授業も1回の授業に適切な量、焦点を絞った実験や活動が行われていた点が印象的でした。

しかし、今回の授業研究においても、必要以上に色紙、色ペン、プロジェクターなどを使用した「見た目重視」の授業、教員が生徒の理解を把握できていない授業が見受けられました。生徒の理解を確認する方法を考えましょう。生徒のノートを確認することも一つの方法です。



トソツェンゲルソム第1学校：  
算数の研究授業の様子（3年生）



物理（第12学校）



4年生の総合学習の研究授業  
（ボルガン県）

### 授業研究のビデオ



数学のプロフェッショナル・チームが中心となり、授業研究のビデオを作成しています。ウランバートル市の第67学校の小学校教員の協力を得て、「立方体を利用して水の容積を量りましょう」というテーマの授業がビデオ用に撮影されました。

このビデオは子どもたちが算数の知識と能力を活用している様子、計算能力が発達していく様子が視聴者に分かるように計画されており、子ども自身が知識を構築する指導法および教材研究の実践方法を教員に理解してもらうためにモンゴルの全教員向けに制作しています。本ビデオはSkyForeverプロダクションによって制作され、今後、モンゴル各地の義務教育学校に配布される予定です。

### 非モデル県における研修

非モデル県を対象として子ども中心の指導法を普及するための研修を、モデル県チームおよびプロフェッショナル・チームが下記の日程で実施しました。

1. ウブルハンガイ県研修：9月24日～9月26日（ボルガン県チーム）
2. スフバートル県研修：9月27日～9月29日（ドルノド県チーム）
3. ウムヌゴビ県研修：10月1日～10月3日（プロフェッショナル・チーム）

これらの研修では、チーム・ワークによる授業準備、研究授業、授業観察や検討会の実施、授業案の改善が行われました。非モデル県の教員が授業研究実践の方法を理解を深める機会となったとともに、モデル県—非モデル県間で経験を交換することもできました。

本研修が、非モデル県における子ども中心の指導法の普及につながっていくことを期待しています。



ウブルハンガイ県研修：  
研究授業後の検討会の様子

### 終了時評価調査の結果

JICAではプロジェクトの終了前に、プロジェクト目標が達成されるかどうかを、妥当性、有効性、効率性、持続性などの観点から評価を行います。

本プロジェクトの終了時評価調査は10月1日から18日まで実施されました。終了時評価調査団はウランバートルだけではなく、ボルガン県、ザブハン県を訪問し教育局やモデル校、非モデル校などを訪問し、インタビューを行いました。

教育科学省とプロフェッショナル・チームの代表を招いた会合で評価結果が共有されました。妥当性、有効性、効率性は高いと評価されましたが、プロジェクト終了後の指導法の普及計画が不明確であるとされ、持続性は中程度という評価でした。

プロジェクト終了後実施されることが望ましいこととして、教育省に対しプロフェッショナル・チームメンバーの活用、指導主事の能力向上、指導法向上へ取り組んだ教員へを評価することなどが提言されました。

\*本ニューズレターは、モンゴルの読者向けに作成したモンゴル語版を基にしたものです。

プロジェクト・チームの事務所を引っ越しました。

### 非モデル区/県を対象としたモニタリング

2011年9月にJICAの中間レビュー調査団により、本プロジェクトの目的を達成するために、非モデル区/県の人材育成により力を入れること、モデル県と非モデル県の連携を促進することが重要だという提言がなされました。

プロジェクトではこの提言を受け、前ページに紹介した研修と合わせて、非モデル県における授業研究モニタリングも実施しています。これまでにモデル区/県チームと協力して、下記のモニタリングが行われました。

1. バヤンウルギー・県：4月22日～4月28日（ザブハン県チーム）
2. ダルハン・オール県：4月30日～5月5日（セレンゲ県チーム）
3. ヘンティール県：5月6日～5月12日（ドルノド県チーム）
4. チンゲルテイ区：9月24日～9月28日（ウランバートル市教育局）
5. ドンドゴビ県：10月8日～10月12日（プロフェッショナル・チーム）
6. フブスグル県：10月24日～10月30日（ボルガン県チーム）



ウムヌゴビ県研修：  
研究授業後の様子



ヘンティール県モニタリング：  
物理の研究授業における実験の様子

### 今後の計画

2012年11月：「指導法改善を全国に普及するための地域別研修」：

1. ウランバートル研修(1)：11月3日～11月6日
2. ウランバートル研修(2)：11月10日～11月13日
3. ザブハン県研修：11月11日～11月14日
4. ボルガン県研修：11月14日～11月17日
5. ドルノド県研修：11月14日～11月17日
6. セレンゲ県研修：11月14日～11月17日

2012年12月：研修モジュールの完成

2012年12月～2013年1月：モデル県内非モデル校対象研修及び研修モニタリング

2013年2月：モデル校授業研究及び授業研究モニタリング

### プロジェクト終了に向けて

本プロジェクトは子どもの学びに注目してきました。優秀な子どもをさらにもっと出ようとするのではなく、落ちこぼれる子どもをなくし、全ての子どもが学びの質を改善しようと取り組んで来ました。

授業研究を活用して初等・中等教育の指導法を改善するというこのプロジェクトの実施により、多くの学校から、先生の教え方が変わったと聞いています。学校管理職・教員の皆さんは、どうか、本プロジェクトが終了しても、子どもに注目することも忘れないで下さい。落ちこぼれる（授業についていけない）子どもは減りましたか？全ての子どもが授業に参加して理解できるようになりましたか？

### JICAプロジェクトチーム連絡先

住所：

Room 405, 4F, Teacher Development Center,  
Peace Avenue 10, Ulaanbaatar, Mongolia  
Tel/Fax: +976-7012-0503, +976-9890-0323

E-mail: [jicacctm@gmail.com](mailto:jicacctm@gmail.com)

Project Website: <http://hicheeliin-sudalga.mn/>

JICA Website: <http://www.jica.go.jp/project/mongolia/004/index.html>

